

第 55 回神奈川地方会秋季例会と日本医史学会の合同例会

日 時： 2020年9月26日 土曜日 14時30分～ 17時

場 所： 鶴見大学会館 地下メインホール

参加費： 500円

※日本医師会生涯教育講座単位 2.5単位が取得できます

開会挨拶 松田隆秀（日本医史学会神奈川地方会会長）
日本医史学会からのご挨拶 西巻明彦

一般演題 14：30～15：00

座長：桐生迪介（かながわ循環器内科）

①『小寺家文書から読み解く明治後期の地域医療』

演者：岡崎女子短期大学准教授 黒野伸子

②『コロナウイルスはどこから来たか？』

演者：保健科学研究所 加藤茂孝

依頼講演 15：00～15：55

座長：関根 透（日本医史学会神奈川地方会副会長）

『温泉と医学：歴史上の人物のかくし湯についての検索と
その医学的適応についての考察』

演者：横浜市立大学医学部医学教育学教授 稲森正彦

特別講演 16：00～16：55

座長：松田隆秀（日本医史学会神奈川地方会会長）

『グローバル化と感染症 一遣唐使と痘瘡、元寇とペスト、
コロンブス交換と梅毒、幕末のコレラそして21世紀のCOVID-19』

演者：日本大学医学部病態病理学系微生物学分野教授 早川 智

閉会挨拶 木村利夫（鶴見大学教授）

一般演題

①『小寺家文書から読み解く明治後期の地域医療』

岡崎女子短期大学准教授 黒野伸子

岐阜県大垣市の旧家である小寺家には、近世後期から近代にかけて約9000点の資料が伝来しており、そのうちの約100点が「衛生医療」に関する資料である。処方箋、種痘証明書、診療明細書、富山の売薬商や婦人病薬に関する資料、家庭薬報、受診券などがあり、年代が判明しているもので明治7(1874)年から昭和21(1946)年に及ぶ。

特筆すべきは、明治41(1908)年6月11日から8月11日にかけて発行された9通の「診療明細書」が伝わっていたことである。本資料は当主小寺弓之助長女が虫垂炎で入院した際に患家に交付されたもので、当家日誌にも入院記録が残る。本発表では、「診療明細書」「小寺家日誌」「種痘証明書」「健康食品の啓発冊子」等を併せ、明治後期の地域医療の一端を明らかにすることを主な目的とした。なお、翻刻、解題は名古屋大学大学院石川寛准教授による。

注記：本研究の一部はJSPS 科研費 17K04658 による助成を受けて遂行された。

②『コロナウイルスはどこから来たか？』

保健科学研究所 加藤茂孝

2019年暮れに出現した新型コロナウイルスは、世界中に流行拡大し、史上初めて世界同時パンデミックになった。ヒトのコロナウイルスは現在まで7種類が発見されているが、7種類の内4種類が風邪コロナウイルスである。残り3種類が重症の肺炎を起こすコロナウイルスであり、2002年暮れのSARSが最初である。判明している限り全てコウモリ由来である。SARSは中国広州でコウモリから（おそらくハクビシンなどを經由して）ヒトに広がったが半年で終息し、それ以降出現していない。2012年のMERSはコウモリからラクダを經由してヒトに広がったが、ラクダが住む中東地域にほとんど限られている。このCOVID-19のみが例外的にグローバルパンデミックになった。中国武漢でコウモリから（ほかの動物を經由したかもしれないが）ヒトに広がった。COVID-19出現の背景を考察する。

依頼講演

『温泉と医学：歴史上の人物のかくし湯についての検索と その医学的適応についての考察』

横浜市立大学医学部医学教育学教授 稲森正彦

日本人の入浴という行為は、世界的に見れば、独特なものである。それには我が国の、文化、気候および温泉などの環境が密接に関連してきたと考えられる。特に温泉については、古来より医学的な意味づけがされることも多く、現在でも多くの場所で効能の表示がなされている。一例を挙げると、炭酸泉を飲泉することについて、三澤ら(炭酸泉誌 1999)により慢性胃カタル、特に胃酸減少症、胃弛緩症、胃痛、悪心等のある患者などが適応症として、逆に胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃酸過多症などが禁忌症として挙げられている。

温泉の中で、とくに「かくし湯」と呼ばれるところがある。1例として、神奈川の地には、戦国武将のかくし湯であったという言い伝えを持つところがある。この場所で歴史上の人物が何を求めて入浴していたか、今となっては手掛かりが少ないが、中には医学的な適応を期待していた場合も多いのではないかと推察する。

本発表では、かくし湯をキーワードに検索を行い、歴史-温泉-医学を繋ぐ知見について、現在の我が国における温泉-医学の研究の現状を踏まえ報告したい。

特別講演

『グローバル化と感染症 一遣唐使と痘瘡、元寇とペスト、 コロンブス交換と梅毒、幕末のコレラそして 21 世紀の COVID-19』

日本大学医学部病態病理学系微生物学分野教授 早川 智

ギリシア語で時を表す言葉にはクロノスとカイロスがある。過去から未来へ絶え間なく流れてゆく悠久の時間がクロノスであり、何らかの出来事でそれまでの価値感や社会が大きく変動するのがカイロスである。わが国の歴史では今年で 75 年になる第二次世界大戦の終戦、そしてその 77 年前に当たる明治維新が典型的なカイロスであろう。今回の COVID-19 パンデミックも後世からは日本史におけるカイロスと評価されるに違いない。

本会会員には、私も含めて NHK の大河ドラマ好きの先生が多いに違いない。時代考証やストーリーの矛盾はさておき、1963 年の「花の生涯」から今年の「麒麟が来る」で 59 作の中には戦国時代と幕末が圧倒的に多い。16 世紀と 19 世紀は大航海時代と帝国主義によるグローバリズムに、否応なしにわが国が巻き込まれた時期である。このような変革期にいかにかに人々が生きたのかというのはグローバル化の流れがますます加速している現代人の共感を呼ぶのであろう。15 世紀末にアメリカ大陸からヨーロッパにもたらされた梅毒は二十年を経ずして我が国に渡来し、猖獗を極めた。南蛮人は鉄砲やキリスト教とともに南蛮医学をもたらし、宣教師や医師により西洋医学の技術のみならず、ヒポクラテス以来の医の倫理がもたらされた。若い時 医師であったと伝えられる明智光秀はその思想に影響された可能性がある。春秋の筆法を借りれば、これが本能寺の変の誘因かもしれない。古くは 7-8 世紀に唐から移入した痘瘡は権力の絶頂にあった藤原四兄弟を斃し、疫病治癒祈願の大仏建立となった。13 世紀にはシルクロードの開通と元の世界帝国が中央アジアに由来するペストを西洋に及ぼしたが、鎌倉武士の奮闘と神風で辛くも元寇を乗り越えた日本はこれを免れている。天然のロックダウンを行うことで台風が日本を救ったことになる。19 世紀には麻疹やコレラのパンデミックがあったが、微生物と感染症、免疫、無菌法の発見は幕末明治の日本にほぼリアルタイムで入ってきており、これが今日の我々の臨床の礎となっている。輸入感染症と日本そして世界の歴史について概説したい。



神奈川県

当事業所は、**感染症対策**として 以下のことに取り組んでいます

- 座席間隔確保
- マスク等着用
- 手洗・手指消毒
- 発熱時等入場制限
- 客席、設備等消毒
- 十分な換気
- 感染発生状況の情報提供

事業所名 **日本医史学会神奈川地方会**

業態： 集会場・展示施設等
住所： 川崎市宮前区菅生 2-16-1
電話番号： 0449778111
担当者名： 日本医史学会神奈川地方会 会長 松田隆秀
発行日： 令和2年9月7日



LINEコロナ
お知らせシステム



登録はこちら

